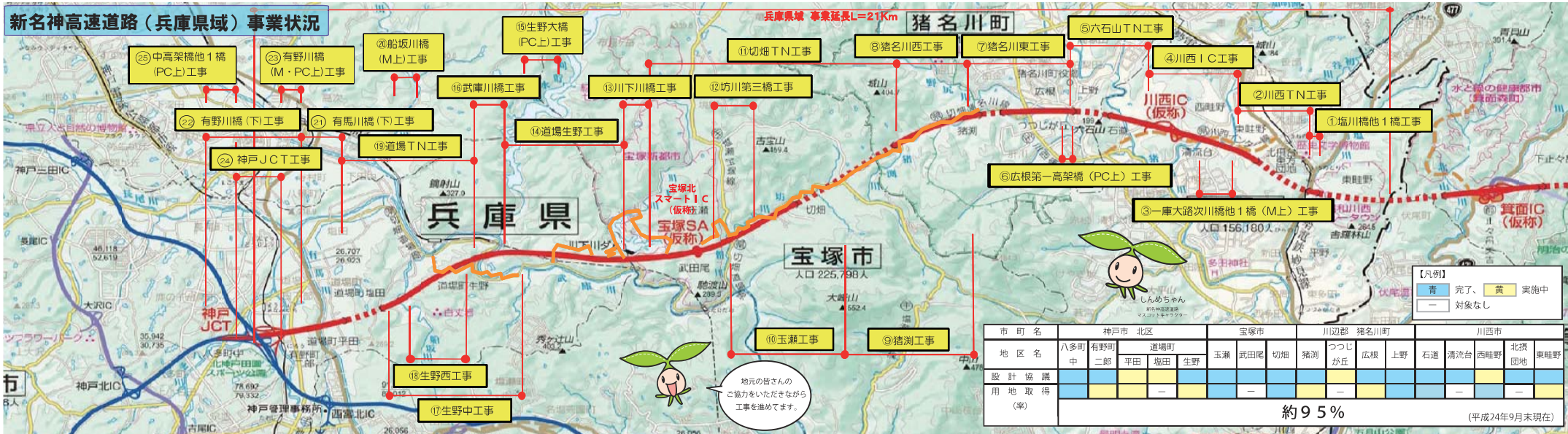


# 新名神高速道路（兵庫県）事業状況



## 22 有野川橋（下部工）工事

山陽自動車道と新名神高速道路を接続する中高架橋（上り線）と新名神高速道路有野川橋の下部工を新設する橋梁工事です。  
写真は、既設橋脚に近接して構築する中高架橋の施工状況です。限られたスペースの中でも効率的に施工できるよう工夫して施工しています。



## 17 生野中工事

神戸市北区道場町船坂地区において、道場トンネル東坑口へ取り付くための工事用道路を構築しています。  
写真は、船坂川を横越する仮橋の杭部分を施工している状況です。



## 16 武庫川橋工事

二級河川武庫川を横越する橋梁工事です。現在、4基ある橋脚の柱部分を施工しており、高さ約80mまで柱を立ち上げていきます。  
写真の手前側に見える橋脚部においては、約50mまで柱が立ちあがっている状態で、来年からは桁部分の施工を予定しています。



## 13 川下川橋工事

川下川ダムの下流部に構築している橋長300mの橋梁です。現在、最も高い橋脚から両側にそれぞれ約100m程度張り出しをして橋桁を施工しています。今年内には桁部分を閉めさせて、今後は神戸市域から切り出した土の運搬路として利用する計画にしています。



## 7 猪名川東工事

猪名川町域東側の高速道路、付替町道、付替河川等を構築する工事です。現在、埋蔵文化財発掘調査が完了した場所から橋梁基礎工事や盛土工事を行っています。  
写真は、六石山工事用道路で発生した土を有効利用して盛土を造成している状況です。



## 5 六石山 T.N 工事

新名神高速道路の工事を行う為、全長1.2kmの取り付け道路を整備しています。写真は、猪名川町の土を切り出ししている状況です。  
今冬期には道路を構成し、完成後は資材運搬路や土の運搬路として使用する予定にしています。



## 新名神高速道路 現場の声（第5回）

～切畑トンネル工事 現場代理人 森氏と宝塚工事長 岩島へのインタビュー～

第5回の『新名神高速道路 現場の声』。今回は、「切畑トンネル工事」現場代理人の森氏と、NEXCO 西日本 新名神兵庫事務所 宝塚工事区 工事長の岩島に切畑トンネル工事の状況などについて聞きました。

### Q：切畑トンネル工事の内容と現在の状況を教えてください。

(岩島) 本工事は、兵庫県猪名川町猪瀬から宝塚市玉瀬までの約4.4kmのほぼ宝塚市全域に渡るトンネル・橋梁下部工・土工事を担当しています。新名神高速道路の兵庫県域で唯一の休憩施設となる「宝塚サービスエリア（仮称）」（以下「宝塚SA」という。）の土工事も含まれております。  
工事内容は、「兵庫県域における最も長い切畑トンネル（約2km）」、「盛土高さが約70mと大規模な盛土となる宝塚SA」、「山間部の橋梁下部工・切畑土工」という多種多様な工事です。  
現在は、宝塚SA建設予定地の本格的な盛土工事を実施するために、流末河川（僧川）の河川改修を概ね完了し、調整池や排水施設の工事を行っています。



宝塚工事長 岩島

(森) 現場着手に際しましては、地元の方々へ工事説明をさせて頂き、工事へのご理解ご協力を頂き、計画通り昨年冬から宝塚SA建設予定地の立木伐採の施工を開始し、現在は盛土の下に敷設する地下排水設備や一部の盛土を施工中です。  
工事完成までの約5年の間、近隣住民の皆様のご意見等をお伺いしながら、工事によるご迷惑が最小限となるよう工事を進めています。

### Q：切畑トンネル工事で気をつけているところ、難しいところは？

(岩島) 西谷地域の自然豊かな場所で今までに無い大規模な工事を行いますので、工事中の雨水排水などの防災対策ならびに騒音・粉じんなどの環境対策は特に重要と考えております。また、品質あるいは工事中の安全に関して現場と協働して管理していきたいと考えています。

(森) 本工事でもっとも留意すべき点は、第三者災害の防止、資機材運搬ルートにおける規制速度等交通ルールの順守であると強く認識しております。このことを踏まえ「沿線住民の方々への十分な配慮と無事故・無災害」を目標として掲げ、施工業者全員で意識の統一を図ります。特に一般の方が通行される場所では、地元車輛を最優先にして安全な工事車輛の運行管理に努めます。  
また、宝塚SA建設予定地については、最大高さ約70mにおよぶ高盛土によって造成する計画であり、施工段階毎の安全管理・品質管理について十分なチェックを行いながら、確実な施工を進めていきたいと思います。  
高盛土の施工については、平成25年春頃からの施工を予定しておりますので、その際には安全第一を念頭に現場を管理していきたいと思っております。

### Q：高盛土とはどのようなものですか？

(岩島) 当社では、高さ15m以上の盛土のことを『高盛土』と言っております。宝塚SA建設予定地では盛土高さが約70mとなることから、調査段階から有識者を交えた検討会を行い、地震などに強い構造を検討し施工に着手しております。

### Q：切畑トンネル工事の独自の取組はありますか？

(森) この工事では盛土工事において情報化施工という新しい現場管理方法を採用いたします。これは作業場所の様子を事務所にて進捗具合や品質の管理が把握できるというものです。  
具体的にはインターネット回線を現場内に張り巡らし、WEBカメラで現場の様子を確認したり、GPS装置を搭載したブルドーザや転圧ローラで現在の仕事をしている位置や高度、またどのくらい締め固めできたかを事務所管理できるような仕組みです。  
事務所と作業場所は2km以上離れており、仕事の範囲も32,000㎡と広大ですが、この方法により一箇所で集中管理と詳細管理が同時にできるようになります。  
さらに作業箇所の気象観測その他のさまざまなデータの集中管理や、職員間の通信システムも広範囲に管理しております。  
これからは広域な施工範囲を管理していくこととなりますが、無事故、無災害で工事を進めることがこの工事に携わる者の使命と考え、職員、作業員全員が気持ち合わせて努力して参ります。  
今後も、多方面の方々のご指導、ご鞭撻をいただきたく願っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



河川改修が完了した僧川



現場代理人 森氏